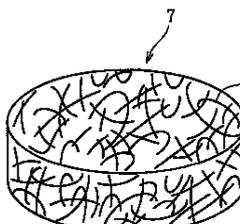
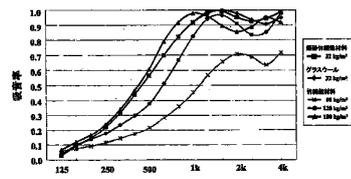


同志社大学発明提案書（発明届）兼 譲渡証

(申請者→同志社大学知的財産センター)

申請日 2014年4月1日

発明の名称 吸音材およびその製造方法						
代表発明者 (申請者)	氏名 知財 太郎 印	所属 ○学部○学科	TEL : 6900 Email : ○○○@mail.doshisha.ac.jp			
学内共同 発明者	氏名 発明 二郎 印	所属 ○学部○学科	氏名 印	所属		
学生共同 発明者※	氏名 権利 花子 印	所属 大学院○○研究科 (学生 ID ○○○○)	氏名□ 印	所属 (学生 ID)		
同志社大学発明規程を理解し、提案した発明に関する特許を受ける権利について、学校法人同志社に譲渡することを希望します。 ※) 学生共同発明者は、譲渡を希望する場合のみ、□ボックスにチェック (レ) 下さい。						
学外共同 発明者	氏名	所属	氏名	所属		
発明の概要		発明に使用した研究費				
<p>課題 多孔質吸音材料の代表例として、グラスウールやロックウール等ガラス繊維を用いたものがあるが、繊維が空中に飛散しやすく、また焼却や土中廃棄が困難であることから、環境面に与える悪影響が大きい。この問題を解決するために、天然素材を使用した多孔質吸音材料の提供が試みられている。例えば特開平7-216191には竹繊維単独または他の繊維との混合集合体に樹脂を混合し、過熱成形した構造体が提案されていて、その用途の一つとして吸音材が挙げられているが、吸音特性としては、劣るものである。本発明は、グラスウールと同等の吸音特性を有し、かつ環境にやさしい吸音材を提供することを課題とする。</p> <p>解決手段 竹材に複数回の爆砕処理を施し、さらに機械的な開繊処理を加えて、直径が5~30μmの単繊維を取り出し、これに低融点樹脂と高融点樹脂からなる複合繊維を混合して目標の吸音特性に合わせた密度に加熱成形する。</p> <p>効果 竹繊維を爆砕処理と機械的な開繊処理により細繊維化されグラスウールと同一の繊維密度を得ることができるようになり、同等の吸音特性を得ることができる</p>		<p>研究費種別1 : 公的資金</p> <p>研究題目1 : ○○○○の開発に関する研究</p> <p>資金提供元1 : 独立行政法人△△△△機構</p> <p>※研究費種別は、該当する種別以外を削除してください。 ※複数の研究費による成果の場合、主たる研究費を1にご記入ください。</p> <table border="1"> <tr> <td>研究費合計金額</td> <td>1,000,000 円</td> </tr> </table> <p>本学における設備使用状況 (設備、場所等) 竹繊維開繊機、高温炉、爆砕装置、音響管</p>			研究費合計金額	1,000,000 円
研究費合計金額	1,000,000 円					
<p>発表予定 (発表者)</p> <p>9月開催の日本騒音制御工学会で発表予定 (知財太郎、発明次郎)</p> <p>将来の可能性</p> <p>竹繊維の処理コストが低減されると、環境に優しい吸音材として期待できる。</p> <p>帰属に関する見解</p> <p>文科省の新技术開発研究プロジェクトに参加した本学の研究成果であり、本学に帰属するのが妥当である。</p> <p>共願先</p> <p>なし</p>		<p>図面、表、グラフ等</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>その他特記</p>				

年 月 日

知的財産センター記入欄 主担当者 :

受付日	特許調査		技術分野	
	調査結果			
	発明委員会	結論		特許事務所
発明番号	公的資金による成果の場合	○願書への記載 (要 ・ 否) ○報告義務 (要 ・ 否)		